

今号の内容

- 世界の動きと難波田城公園
- 図録紹介「郷土かるたの富士見」
- 夏休み古民家宿泊体験
- 炭火アイロン
- 冬のイベント予定

世界の動きと難波田城公園

市民学芸員 鶯飼 貴子



今日、世界には様々な問題があります。ウクライナ戦争、電気代高騰、気候変動による異常気象…これら様々な問題への取り組みを国際的に呼びかける動きがあります。その一つ「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を中核とする「アジェンダ 2030」(Agenda: 予定表、計画表の意)は、2015年9月25日の国連総会で採択されました。「SDGs」は17個の目標からなり2030年までに達成を目指すものです。

また、2022年に開かれた国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)の決定を受けて、本年2月に国内で「J-GBF ネイチャーポジティブ宣言」(以下「宣言」と略)が発表されています。この宣言は、生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる社会経済全体の変革を訴えるものです。

これらの動きを踏まえ難波田城公園・資料館の活動を見ていきます。

難波田城公園のイメージキャラクターは「なんばった」です。日本にはバッタの仲間であるイナゴを佃煮などにして食する文化があります。この昆虫食はSDGsに含まれる「2. 飢餓をゼロに」等、複数の目標を達成するための方策とされています。

園内の水堀は、その岸辺の一部がビオトープにさ

れ生態系の維持を図る場になり、堀全体は野鳥の憩いの場にもなっています。これらは「6. 安全な水とトイレを世界中に」の中にある「水に関わる生態系を守り、回復させる」などに関連すると思います。

資料館が夏に行っているヘチマやゴーヤのカーテンの利用は、温暖化対策の取り組みであり「13. 気候変動に具体的な対策を」にあたると思います。

さらに、工芸作物のホウキモロコシを自ら育て、ほうき作りのわざ・伝統文化を継承し、昔ながらの生活用具を大切にしている、ほうき作り伝承会の姿勢は「宣言」にかなったものといえるでしょう。

このような取り組みは資料館の他の団体でも行われています。その努力やアイデア、気づきや身近な環境の改善につながると私は考えます。そして生物多様性の保護や、持続可能な開発目標の達成にもつながっていくと考えています。つまり、公園・資料館とそこで活動する諸団体は、現状でSDGsの諸目標と合致し、また「宣言」で訴えられている、生物多様性の再生を可能にする変革の一端を担っているといえるのではないのでしょうか。

私もこの公園・資料館で活動する市民学芸員、また一市民として地域から国、世界、宇宙へとより広い視野を持ち目標達成に取り組んでいきたいです。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

解説資料 『郷土かるたの富士見』

富士見市が市制を施行した昭和47年(1972)の秋に、「富士見文化かるた」が制作されました。そして、平成25年(2013)秋季企画展「郷土かるたの富士見」の中で、そのかるたを紹介しています。この企画展では、展示に即して二つの解説資料が作られました。

資料①は、かるたの制作経緯や特徴等の説明と、45枚の絵札・読み札の写真を掲載しています。

鶴瀬団地で新住民となった「ふじみ版画の会」会員たちが、郷土の歴史と文化財に対する関心を高めたいと願ってかるたを作成、読み句と解説文は、「富士見郷土史同好会」の会員でもあった伊藤正和氏が担当しました。

印象に残る札には、難波田城を詠んだ、「ゆめかなし むさしの武士の城の跡」や、基本となる五七五調を逸脱し遊び心を生かした「てらの門 かねつきどうや 大応寺 ゴーン」があります。

今でも、中央図書館階段壁面には16組の絵札と読み句が、また、難波田城資料館では展示パネルに「き」の札を目にすることができま

す。資料②は、かるたに選定された文化財45ヶ所の平成25年当時の姿を写真と文章で詳しく解説しています。富士見市の歴史を知る手掛かりとなる興味深い内容です。

郷土かるたの富士見



資料①



資料②

資料①②は資料館 HP で PDF が公開されています

おもしろ・なつかし体験⑦⑧

夏休み古民家宿泊体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

新型コロナウイルス感染症対策のため中断していた「夏休み古民家宿泊体験」が4年ぶりに再開されました。今年定員8人で募集したところ20人を超える応募があったため、参加者を12人(女子7人、男子5人)に増やしての開催でした。

8月5日(土)午後1時に金子家の土間で開会式が行われ、館長の挨拶に続いて参加者各々が自己紹介をし、公園の案内から体験がスタートしました。

体験内容は豊富で、竹細工(コップと箸作り)、うどん作り、五右衛門風呂。夕食の後は、夏の夜にふさわしいお話を聞いてからの肝試しや花火などなど、盛り沢山です。

ほとんどの参加者が初対面なのに、直ぐに仲良く打ち解けて、和気あいあいとはしゃいでいました。翌日は朝食用の鮭を「七輪」で焼いたり、「竈(かま

ど)」で炊いたご飯を食べたりと、普段はできない体験をしてもらいました。

朝食後の作業時間は「立体万華鏡」の作成です。三つのテーブルに分かれ、それぞれに補助役として市民学芸員がつき、終始順調に進みました。

お昼は「流しそうめん」を食べ、後片付けと掃除の後「感想文」を作成して、解散となりました。

参加した子どもは、肝試しを怖がる子、鼻血を出す子、軽い火傷をした子、終始元気な子と様々でした。これからも良いところは伸ばし、課題は克服しながら継続して行きたい行事だと思いました。

筆者は、肝試しの「お化け」役でしたが、そこで感想文として一句。

『肝試し お化けイジられ 汗まみれ』

(小山内 けんじ 鏗爾)



人の創ったもの★人の使ったもの

炭火アイロン



当館では、これまでに5台の炭火アイロンを収蔵してきました。今回は今年度新たに寄贈いただいた6台目の炭火アイロンについて紹介します。

炭火アイロンって何？

炭火アイロンは、今のアイロンとよく似た船のような形をしています。中に炭火を入れ、その熱を利用して衣類のシワをのぼす物です。

日本では、明治時代になって、外国から輸入されたのがきっかけで普及しました。

寄贈者は昭和15年(1940)生まれで、子どものころ、母親がこのアイロンを使っていたことを覚えているそうです。



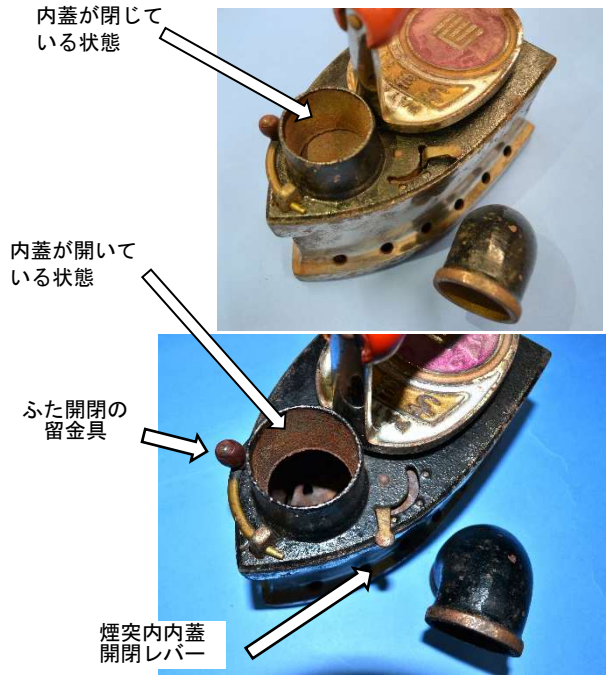
炭火アイロンの工夫

今回の資料は保存状態がよく、破損・欠損もないもので、また、はじめてアイロン台も付いていました。

炭を入れる蓋の開閉用には留め金具がつき、持手は熱くならないように木でできています。

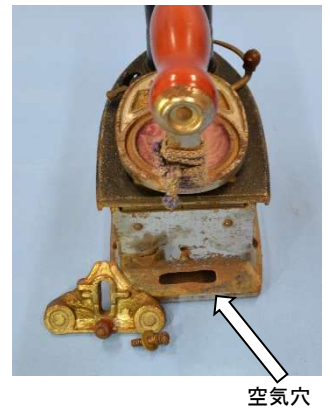
そして、炭火を燃やして出た煙を外に出し、燃え

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



やすくするための煙突がついています。炭火アイロンの特徴的な形です。また、煙突の中にも内蓋があり、熱の調整ができるようになっています。

アイロンの後ろには空気穴がついていて、温度が下がると空気穴を開けて空気を送ります。加えて、側面にも空気口がついています。



アイロン内部には直接底に炭が当たらないように中敷き(受け皿)があり、両側面に沿って2cm幅の取り外し可能な金網が付随しています。

今回の資料は、寄贈者宅で大切に保管されていたことで、付属品も含めほぼ完全な形で収蔵できました。炭火アイロンにさまざまな工夫が施されていることがよく分かるものです。(和田 雅子)

＊ ＊冬のイベント予定＊ ＊

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

●秋季企画展

資料館活動団体作品展（後期）

裂き織り、手芸、藍染め、扇凧、農芸、ほうき作りなど各団体の作品を展示します。

会期／11月18日(土)～1月8日(祝)

●春季企画展「ひらいた 考古館」

50年前、市立資料館の前身である「市立考古館」が設置されました。施設が貧弱なことを逆手にとり、市民との協働事業等に力をいれました。そして…

会期／3月9日(土)～6月9日(日)

会場／特別展示室

●子ども書初め練習会

とき／12月23日(土)

①午前9時半～10時半 ②午前11時～正午

会場／講座室

対象・定員／市内小中学生・各15人(申込順)

持ち物／書道セット、書初め用紙、お手本、新聞紙

申込み／12月2日(土)午前9時から電話で

指導／^{ひんゆう}硯友会

●ちよっ蔵市「つきたてのお餅」

とき／12月24日(日)午前11時～売切れまで

価格／1パック250円

会場／旧金子家住宅

主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

とき／12月27日(水)午後1時～3時

会場／旧金子家住宅

対象・定員／市内在住・在勤の方8人

(申込順・応募多数の場合初参加優先)

参加費／1200円(材料代 ※ダイダイを含む)

指導／吉川節男氏

申込み／12月1日(金)午前9時から電話

●正月飾り材料の予約販売

受付／12月1日(金)～12月17日(日)に電話で

※締切り後のキャンセルはご遠慮ください

引渡し／12月27日(水)午前11時～午後3時

資料館ホールで

費用／1組1100円 ※ダイダイなし

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解説しながら、当時の歴史や文化を学びます(全3回)。

とき／1月28日(日)・2月11日(日)・2月25日(日)の午後1時～3時

会場／講座室 講師／山野健一(当館職員)

定員／20人 参加費／無料

申込み／1月4日(木)から

●ちよっ蔵市「マユ玉ダンゴ」

小正月に農作物やマユの豊作を願って飾る「マユ玉ダンゴ」を作り販売します(おしるこなどに入れて食べられます)。

とき／1月28日(日) 午前11時～売切れまで

会場／旧金子家住宅 価格／1パック200円

主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌(2kg分)を持ち帰ります。

とき／2月24日(土)午後1時～3時

会場／旧金子家住宅 材料代／1500円(予定)

対象／市内在住者を含む家族または友人

定員／15組(申込順。応募多数の場合初参加優先)

持ち物／エプロン、三角巾、容量10ℓの容器など

申込み／2月3日(土)午前9時から電話で

◆ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

12月24日(日)つきたてのお餅

1月28日(日)マユ玉ダンゴ

2月お休み

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日 10:30～

※他にもさまざまなイベントがあります。各イベントの詳細は、広報「富士見」やポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月29日(金)から1月3日(火)まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5時まで開園しています。



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月) 資料館公式サイト

